

解決したい
課題

有害鳥による農作物被害の軽減

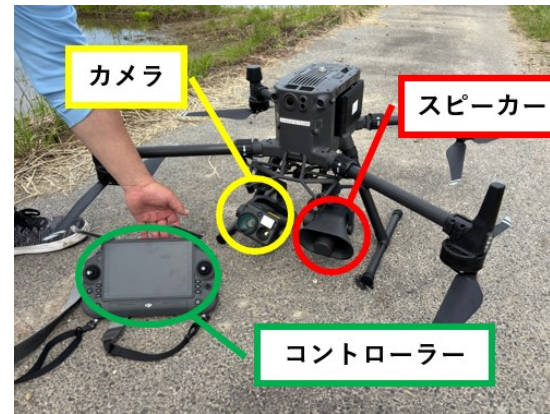
有限会社天美堂塗装所

2025年5月～2026年3月

R7実証内容

田植え直後の水稲（井ヶ谷町）、果樹（東境町）へのカラスによる被害が後を絶たないため、**ドローンを活用**し、下記のとおり検証を行った。

1. 高周波等のカラスが嫌う音声をドローンに装着したスピーカーから発し、効果を検証
2. 高周波や猛禽類の鳴き声など様々な音声をスピーカーから発し、カラスが最も嫌う音声を検証



▲実証実験で活用したドローン

取組成果

- 実証実験開始当初、約100羽いたカラスが1度の飛行（約1時間の飛行）で約20羽に減少（最終的には数羽程度にまで減少）
⇒**80%以上減少**
- 12月に現地確認をしても、数羽程度のカラスしか確認できなかった
⇒**長期に渡る効果も確認**
- 高周波や猛禽類の鳴き声での効果は薄かった
⇒**カラスの鳴き声が最も効果的**



結果考察

- 音声による対策だけでなく、ドローンの接近、プロペラの低周波振動など**要因の複合が重要**
- 従来の銃による駆除と、減らしきれないカラスをドローンで追い払う**両方の対策が必要**

実装に向けた課題（社会実装）

- カラスが確認できない場合も**予防的にドローンの飛行**を行うことが対策として重要
- **令和8年度から**猟友会の銃による駆除とドローンでの追い払いの**複合的な対策を導入**